

ハイライトよねやま 56

<10月は米山月間>

(財)ロータリー米山記念奨学会
2004年10月13日発行

1. 寄付金速報 ~10月は米山月間です

9月までの寄付金は、前年同期と比べ0.03%減少でした。普通寄付金が0.9%減、特別寄付金が1.3%増です。9月の特別寄付金が前年同期と比べて増加しましたが、これは、今年度からクラブ米山(CY)奨学金【注】の半期毎の分納が可能となったことで、この奨学金に関連する世話クラブからの寄付金が、一部この時期に入るようになったことが要因と考えられます。

10月は米山月間です。クラブ・地区で米山奨学事業に関わる皆さまには、引き続き卓話など広報活動にご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

【注】クラブ米山(CY)奨学金:

博士課程最終学年に在籍し、1年以内に学位取得の見込みのある奨学生に対して、世話クラブからの申込みによって奨学期間を延長できる制度(最長1年)。延長期間(6ヶ月または12ヶ月)の奨学金の半額を世話クラブが寄付金として負担することが条件となる。

2. 今月のロータリーの友“よねやまだより”は.....

米山月間・特別座談会:『ロータリアンになった米山学友が語る 米山奨学事業のこれから』(友10月号P.17~)

『ロータリーの友』10月号の“よねやまだより”では、米山月間特集として、恒例の特別座談会を掲載しています。今年は、現在ロータリアンとなっている4人の米山学友に、自らの経験を踏まえて米山奨学事業について思うところを語っていただきました。支援する側・される側、双方の気持ちをよく知る彼らならではの視点が魅力です。そのほか、ロータリー米山記念奨学会の寄付金や財政、奨学生数などの諸データを2ページにわたって掲載しています。ぜひご一読ください。



3. 第3回フォーラムに向けて皆さまの声をお寄せください

2004年12月11日(土) 新高輪プリンスホテルにて第3回米山奨学事業フォーラムが開催されます。このフォーラムは、ガバナー・エレクトとその推薦者2名の計3名を地区代表とし、2006年度の制度改編に向けた議論のために集う場となります。以下は具体的な論点です。

- (1) 米山の“使命”とは? またその選考基準は?
 - (2) 事業の目的と奨学金額
 - (3) 指定校・大学推薦制度の拡充
 - (4) 世話クラブ・カウンセラー制度の拡充
 - (5) 新しいプログラムへの取り組み
- 【参考資料: 『米山奨学事業豆辞典』(p.11~)】

フォーラムに出席いただく3名は、地区の意見を代表して参加されます。皆さまの声をぜひ地区にお届けください。なお、フォーラムで協議された内容については、来年の『ロータリーの友』よねやまだよりにて報告する予定です。

4. 国際ロータリー理事・南園義一氏より、米山奨学事業に寄せる言葉

8月30日の理事会・評議員会では、台風16号の影響でやむなく欠席となった方々もいました。来賓の国際ロータリー理事・南園義一氏も、予定の飛行機が欠航のため欠席されましたが、代わりにメッセージを寄せてくださいました。当日の会議で高野副理事長によって代読されたこのメッセージには、米山奨学事業のこれからの課題の核心を突く内容が込められており、出席した理事・評議員の皆さんも静かに耳を傾け、受け止めておられるようでした。

米山奨学事業について思いをめぐらせていただく米山月間において、南園RI理事からの今回のメッセージは、きっとご参考になることと思います。全文を当会ホームページに掲載していますので、ぜひアクセスしてご覧ください。

南園RI理事の言葉（一部抜粋）

今、ロータリーの奉仕活動も変わりつつあります。人道的奉仕と教育的奉仕活動の割合が変化し、人道的プログラムが増え、従来多かった教育的奨学生プログラムが減少傾向にあります。限られた寄付金のなかでの奉仕活動の比率はとても重要です。地区やクラブが個性的な活動目標と理念をしっかりとって行動すべき時代になったということでしょう。そして、今や、時代の変遷や社会構造、また社会意識の変化などによって米山奨学事業もまさに変革期にあるといわれています。この変革期を乗り切るためには、私たちは、米山記念奨学会の事業目的は何かという根本問題を再認識する必要があるように思います。

全文はこちら <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/r_member/message0830.html>

5. 私は元米山奨学生の教え子 ~ 米山奨学生の卓話レポート ~

「私は“一期一会”という言葉がとても好きです」と語る米山奨学生、楊 琇媚さん【台湾/広島大学大学院/D-2710 広島東南RC】。台湾の大学の日本語学科で、心から尊敬できる恩師に出会い、努力の果てにつかんだ日本留学。彼女が師と仰ぐその人は元米山奨学生で、「日本語を教えるだけではなく、常に感謝の気持ちを持つことや、世の中の役に立つ人間になることを教えてくれました」。現在、広島大学で博士号取得を目指す楊さんですが、ここに至る道のりは試練の連続でした。甘い認識で選んだ文学研究への迷い、先行研究の論文が理解できない、アルバイト先で怒鳴られる……壁にぶつかるたびに悩み立ち止まりますが、「何も得ないままで台湾に帰ることはできない」「このくらいでやめたらこの先何もできない」と、再び歩き出す等身大の若者の姿に、「クラブ会員一同寂として声無く聴き入りました」（同クラブ会員・2710地区仁田理事）。



全文はこちら <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/r_member/takuwa.html>

6. 続々と反響！『米山奨学事業豆辞典』アンケート

先月の55号でお知らせした『米山奨学事業豆辞典』の巻末にはアンケートが付いています。米山月間資料として、各クラブで会員各位に配布されてから、次々に回答が寄せられています。日頃、米山奨学事業について感じていることを、ぜひこのアンケートにご記入いただき、FAXでロータリー米山記念奨学会事務局までお送りください。皆さまのご協力をお願いいたします。

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当：峯・野津・大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館ビル8階
Tel: 03-3434-8681 Fax: 03-3578-8281
E-mail: highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL: <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>